



小松市中海中と市東陵小、同市中海小による小中連携「あいさつWeek」は5日行われ、3校の児童生徒が登校してきた児童に

あいさつ運動

「おはようございます」と元気に声を掛けた。あいさつWeekは、中海生徒会が「地域に響く、あいさつをしよう！」を目標として、8日まで行っ

希少なチョウウ間近で

スクスク会が観察路整備 しまつの杜

小松市の「しまつの杜」の園内に5日、希少なチョウウを間近で見ることが出来る観察路が完成した。コマッ



観察路を整備する会員 小松市の「しまつの杜」

白山市松南小に5日、ウサギ2匹が届き、飼育小屋で児童がエサを与えたり、抱きかかえたりして触れ合った。同校で世話していた1匹が今年1月に老衰で死に、児童の間でウサギを待ち望む声が上がっていたため、内灘町で動物病院を経営する卒業生の田村兼人さんが学校の依頼を受けて提供した。

ウサギ「かわいい」 卒業生寄贈の2匹が到着

白山・松南小



ウサギと触れ合う児童 白山市松南小

て知られぬ型種の雄雌1匹ずつを贈った。飼育環境委員会の児童がウサギの生態や飼育法などを教わった後、生徒ウサギで癒やされた」と嬉し

台車の車輪新調

白山市美川南町は、県無形民俗文化財「おかえり祭り」で巡行させる台車の車輪3基を新調する。これまで部分的な補修はあったものの、全面に漆を塗った木製車輪を全て取り換えるのは藩政期に台車が造られて以来初めてとなる。同町は、10年に一度巡ってくる「おかえり筋」を2年後に控えており、来年3月の修復完了を見込む。

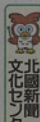
美川南町が藩政期以来 2年後のおかえり祭りに向け



修理に向けて、美川南町の台車の部材を取り外す職人 白山市美川浜町

美川南町の町内会が所有する台車は天保年間(1830~43)に造られたと伝わる。美川仏壇の職人技が随所に注がれ、せいたんにあしらった螺細工が目を引き。今回、藩政期以来、傷みがひどかった車輪を新調するほか、黄や赤、青の巴紋があしらわれた「殿手」と呼ばれる曳き手を修復する。柱や壁板などを飾る金箔も貼り直す。

5日は美川浜町の収蔵庫前で、修理を請け負う北島仏壇製作所美川新町の4代目監師北島昭浩さん(53)や、車輪の木地加工を手掛ける北村工務店(美川和波町)の北村稔代表(53)ら5人が解体作業を進め、台車から部材を取り外した。新しい車輪は赤松を削った部品を組み上げて漆を塗り、おかえり筋には藤原神社(美川南町)の春季例大祭



小松教室で気軽に踊り楽しむ体験会

小松教室の新設講座「日舞・歌謡舞踊三条流」の体験会は5日、北國新聞社小松支社内の同教室で開かれ、講師を務める三条流家元後見の三条つす由紀さんが年齢や性別を問わず気軽に楽しめる踊りを指導した。



踊りを楽しむ参加者 小松教室

住民が避難訓練 能美・金剛寺町 能美市金剛寺町の防災訓練は3日、同町で行われ、住民約50人が豪雨時の避難の手順を確認した。大雨によって町内で土砂崩れの恐れがあり、夜間に避難するという想定で行われた。避難支援役の住民が

競歩の2選手が 能美で強化合宿 市長に健闘誓う 競歩で国内トップクラスの実力を誇る丸尾司、山西利和の両選手が4日、8月にインドネシアで行われるジャカルタ2018アジア競技大会に向け、能美市で強化合宿を始めた。日本代表として出場する2人は同日、市役所井出敏朗市長を訪ね、健闘を誓った。2人とも京都府出身で、愛知製鋼(愛知県)に所属している。丸尾選手は、能美市の起伏がない競歩用のコ

で毎年5月の第3土、日曜に行われる。初日は13台の台車が神輿を先導して美川地区を練り、2日目は10台が持ち回りして担ぐ「おかえり筋」の通りをたどって、神輿や台車が神社に戻る。車輪新調などにかかる費用は約650万円で、町内会費の積み立てを充てるほか、市も3分の1程度を助成する。美川南町の台車責任者である小川和憲さん(67)は「車輪は台車の肝心な部分。美しく仕上がるのが楽しみだ」と期待した。

講座は毎週火曜午後1、3時に開かれ、受講料は1万4040円(3カ月10回分)。体験会は12日と19日

小松、能美、加賀の就職面接会をPR ラジオ(しまつ) ラジオ(しまつ)76・6が「のこ松市広報番組」わくわくタイム」は5日放送され、小松、能美、加賀3市の職員が、7月7日に小松、能美、加賀3市の職員